

# 図書館だより

1994. 1. 10

第 15 卷 4 号

通巻 128 号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

## 仮面から人へ

高久真一

古代ローマでキリスト教徒が歴代の皇帝を拝まぬ奴らとばかり弾圧され迫害された頃のことである。キリスト教徒を愚弄する劇が創作され、大いに当たりをとったが、彼ら信者たちがその劇の中に無理やり引き出され、大勢の観客が見守る中で彼らの信仰を棄てるかどうかを迫られ、これを拒否する者は、舞台にしつらえられた十字架で実際に処刑されるということがあった。ローマ人好みの残虐なスペクタクルであった。

これが単なる処刑の見世物ではなく、一つの演劇となっていたのは、他にも仮面をつけた役者があり、ある者はキリスト教信者を演じ、棄教を迫られると簡単に「転び」、そのため磔刑をまぬがれるという筋が組み込まれていたからである。

紀元四世紀初頭のこと、ローマの野外劇場にこのキリスト教徒役の巧みな者がいた。今のフランス南部にあるアルル出身で、その名をゲネシウスといった。アルルの町は、今でも古代ローマ時代の野外劇場や闘技場がほぼ完全な状態で残っている人口五万ばかりの観光都市だが、このアルルの劇場にいたと考えられるゲネシウスが憧れのローマの舞台に登場したのであった。

地方劇場の花形でも、中央でそのまま通るはずもなく、彼はキリスト教徒役という、言わば汚れ役に甘んずることになる。ただ、彼は芸熱心なだけに、その役を巧みに演ずるため、密かにその異教の深みまで究め、祈りの言葉も各種覚え、本物顔負けの域に達する。その祈りの演技では、感きわまって大げさに体をゆり動かしたり、首をふったりの「こっけい」な仕草をしては、観客から愚弄され罵倒をあげた。そして愚弄され痛罵されればされる程、名演技とばかり賞賛されるという、彼の心に深い傷を与えずにはおかない経験を続け

る。仮面をつけた彼の内面に何が起っているか、外からは容易には判断がつかなかった。

ある日の上演のこと、信仰をとるか、これを棄てるかの選択を迫られる例の場面になった時、ゲネシウスはこともあろうに、突然仮面を脱ぎすて、演劇という虚構の世界から抜け出し、大勢の観客の視線をあげながら、自分はキリスト教をほんとうに信ずると真顔でしかも大声で告白したのである。舞台上の磔刑係りの役者だけでなく、怒った観客までも彼に走りよって、その場で殺したのは言うまでもない。中央で名優たらんことを夢みた地方出身の若者の哀れな最後であった。

これは、役割りが役者の本性を変えてしまった特異な事例、演技がいつの間にか身について実体となってしまったケースと言ってよい。あるいは、仮面がそのまま素顔に変化してしまった場合とでも言えよう。そもそも、仮面とは当時の言葉、つまりラテン語で「ベルソナ」と言ったが、興味深いことに、英語で「人」という意味の単語「パースン」はこの「ベルソナ」を語源としている。してみると、ゲネシウスはその時「ベルソナ」をかなくり棄てて「パースン」になったのであった。

昔の殉教者にまつわる物語には何がしかのフィクションがつきものだが、ぎりぎり思いつめてその挙に出た彼がラテン語の「仮面」から英語の「人」への語意変化の歴史を一瞬のうちに先取りしたことだけは確かである。

(たかく しんいち 人文学部教授)



## ◀ 経済小説の勧め ▶

向田直範

北京市内の北京外国語学院（大学）で、日本の経済小説を素材に高度成長の秘けつを探り、市場経済づくりのお手本にしようというユニークなセミナーが開かれたという（北海道新聞 1993 年 12 月 7 日朝刊）。討論に利用された“教科書”は安土敏『企業家サラリーマン』（講談社文庫）と高杉良『懲戒解雇』（講談社文庫）である。前者は大手商社の部長が米国で飲食業に転職するまでの経過を描いたもので、企業家（entrepreneur）とサラリーマンは両立するかがテーマとなっている。後者は、旧財閥系の一流化学会社で、派閥争いのあおりを食って解雇されそうになったエリート課長が、会社を相手取って地位保全の訴えを起こした事件を素材としたものである。主催者は、単なる小説（フィクション）としてではなく、日本の企業の経営のあり方やそこにおけるサラリーマンに関する情報源として、これらの小説を取上げたのであろう。

経済小説とは、組織のなかで働く人間、あるいは組織そのものがテーマとなった小説のことで、ウェートの置き方によりサラリーマン小説とも企業小説ともよばれ、扱い方により純文字からミス

テリーまで幅広い分野にまたがっている（1994 年版『現代用語の基礎知識』）。経済小説はノンフィクションではない。作家たちは、実際に起こった事件を綿密に取材し、足らざるところを想像力で補うのである。その点では、下手なノンフィクションよりはるかにリアリティがある。

日本経済や産業界の内幕を取上げた小説は以前からあったが、経済小説という、はっきりした一分野が形成されるようになったのは、それほど古いことではなく、1973 年秋の第 4 次中東戦争と、それに続く石油ショック以来のことである。日本経済と国家社会の先行きに不安を感じたビジネスマン達が、これらの小説を自分の鏡として、実践のテキストとして、さらに仕事の上での挫折と栄光を占う小型のバイブルのようなものとして、読み漁るようになったのだという（中嶋誠「企業・経済小説の読み方・読まれ方」マネジメント 1979 年 8 月号 122 頁）。しかし経済小説という語を広めるのに大きな力があつたのは、評論家の佐高信氏であろう。彼は、その著『経済小説の読み方』（教養文庫）で、「この本を出した頃（1979 年頃）は、まだ、『経済小説』という言葉にも馴染みが薄かつ

### 気楽に読もう — ①

#### 『復刻版 開墾乃記』

坂本直行著（北海道新聞社）

坂本直行という人を知っているだろうか。画家としてその名を知る人がいるかもしれない。彼は、北大を卒業後、昭和 11 年から広尾町の原野で開墾生活を始める。開墾の初めからの生活を書き綴った『開墾乃記』の初版は、昭和 17 年。半世紀を経て昨年、復刻版が出版されて、再び手にすることができるようになった。

半世紀を経た今も魅力は、まさに彼の生きる姿

にある。淡々と書かれているその生活は、私たちには想像を絶するものであるし、その生活の過酷さは、よく生きているものだと思われる程である。しかしそこに、陰鬱な暗いイメージは不思議と浮かんでこない。むしろ、冷たい朝のすがすがしさのようなものが感じられるのである。厳しい過酷な生活のなかで、その苦しさに絡め獲られて何も感じられなくなりそうなのに、彼はそうではない。次々と襲う苦難に深く悲しみつつも、自然の美しさに感動し、原野を愛している彼の精神力に驚かされる。おおらかに、自由に、柔軟に、そして真





たが、今や、ビジネスマンのある種の栄養源ともなっており、これから企業に入ろうとする学生たちにとっても、『おもしろくてためになる』リアルなガイド・ノベルとなっている」と述べている。

佐高氏によれば、経済小説には、①問題の立体的見方を知る(情報小説)、②ビジネスマンの生き方を問う(人事小説)、③モデルを知り、実物を探求できる(モデル小説)、という三つの効果があるという。私の研究分野である経済法(独占禁止法、消費者法等)は経済社会の動きを直接受けるため、経済官庁や企業の経済活動のフォローを欠かすことができない。新聞はもちろん重要な情報取捨の手段一つであるが、新聞の行間を埋める重要な情報源として経済小説が有用である。さしずめ情報小説、モデル小説としてのそれである。例えば、銀行合併については高杉良『大合併』(講談社文庫)が、証券業界の実態については高杉良『巨大証券』(講談社文庫)が、また自動車業界における系列については清水一行『系列』(集英社)が大変役に立った。

私は、経済記事の行間を埋めるものとして、また、無味乾燥な授業(?)を補う教材として、さらには、就職のガイドとして、学生諸君に経済小説を勧めたい。殆どが文庫本で出版されているのでそれほどの負担を感じることなく入手できるし、またブック・マート等の古本屋では真新しい

本が定価の半額で売られているので、そこを利用すればコーヒー一杯分の値段で有益な情報を手に入れることができるのである。

最後に、日本の企業に関心があるが厚い本を読むのはチョットという諸君に、佐高信『会社を読む』(徳間文庫)を勧めたい。

(むかいだ なおのり) 法学部教授



## 6. 高杉良

剣に生きていたのだなと、その勢を感じるのである。そして、その生きる姿に触発されるのである。

また、彼曰く、『『百姓くらい馬鹿臭い商売は無いね』こうした先入観は、農民の一人ひとりに深く浸透して居る。併しこうした観念は、農民自らも是正する可き時期にもなったし、又社会一般もかかる観念の解消に考慮を払う可き時代でもあろう。戦後最悪の凶作だった今年、戦後の農業政策に翻弄された農業の姿が浮き彫りにされてみると、彼の言葉は、むしろ深刻に今に生きていと

思われるのである。

彼のメッセージは、時代を越えて、今を生きる私たちに考えるチャンスを与えてくれる。復刻版は、現代仮名遣いなので読みやすい。淡々とした平易な文章の中に鮮やかに浮きだされた彼の精神に触れることが刺激的なのである。(S)





日本の証券市場 規制緩和とグローバル化 岡崎守男、浜田博男編 1990  
 最新証券取引法 堀口亘著 1991  
 世界経済情報の読み方・つかみ方 変化を先取りする全ノウハウ 日本の新聞ではわからない 大竹慎一著 1992  
 銀行一再編・淘汰の時代 生き残るのは誰か 日本経済新聞社編 1990  
 日本の金融システムと金融市場 田村茂編 1991  
 東京マネー・マーケット 森田達郎、原信編 1992  
 現代日本メーカーの生産・物流 海外進出・経営の課題を中心として 国狭武己著 1992  
 地球環境問題読本 21世紀を私たちの手に 本谷勲著 1992  
 地球の報復 大気に映る環境破壊 ルイズ・B.ヤング著 1992  
 最新ビジネス英語を書くコツ 人間中心の国際ビジネスコミュニケーション 亀田尚己、山本康隆著 1991  
 テレビジャーナリズムの現在 市民との共生は可能か 津田正夫編 1991  
 生き残る 沖縄・チビチリガマの戦争 下嶋哲朗著 1991  
 昭和史と天皇 色川大吉著 1991  
 新世界秩序と日本の役割 大来佐武郎監 1992  
 価値法則論体系の研究 現代経済分析の理論的基礎 村上和光著 1991  
 資本主義と人間自然・土地自然 梅垣邦胤著 1991  
 図説 2000年の世界と日本 経済100の予測 関口末夫、日本経済研究センター編 1991



図書館棟

統合 EC ヨーロッパからの衝撃 太田稀喜著 1991  
 企業社会のゆくえ 21世紀への胎動 上田慧 [ほか] 著 1991  
 エlegant・カンパニー 人にやさしい企業経営 赤岡功著 1993  
 日本型企業社会の構造 基礎経済科学研究所編 1992  
 巨大企業は復活できるか 企業オリンピック「勝者の条件」ロザベス・モス・キャンター著 1991  
 クライシス・マネジメント 危機管理の理論と実践 大泉光一著 1993  
 中小企業週休2日制導入マニュアル 中小企業庁指導部指導課編 1991  
 時短が創る経営新革 小倉正男著 1992  
 金融 池尾和人 [ほか] 著 1993  
 知られざる王国 NHK 大下英治著 1991

気楽に読もう — ②

『夢の事典』

ラッセル・グラント著・豊田菜穂子訳  
 (飛鳥新社)

私達人間は、平均して一日の3分の1は眠っている。眠りについてすぐ一番深い眠りが訪れ、そして浅い眠りが短時間続く、即ち「レム睡眠」の期間中に私達は夢を見る。

夢は何年来も会っていない友人が、いきなり出てきたり、現実では考えられない行動をしたり、それとは逆に現実的なものまでも見たりする。

なぜこんな夢を見たのだろうか。良い知らせなのだろうか。悪い前兆なのだろうか。とても気になるところだ。

そこで「夢の事典」をお薦めしたい。これは夢の中に出てくる人や行動などが、あいうえお順に配列され解釈が書かれている事典である。

例えば、母親が夢に現れたらパートナーとの関係が危うくなる前ぶれ。「黒い犬」は友人の裏切り。逃げ遅れる夢は手に余る戦いを挑まれそう。

これで、あなたも転ばぬ先の杖。よい夢を！  
 (S)



3 F マイクロ  
リーダープリンタ

法学と政治学の諸相 熊本大学法学会編 1990  
 東洋学の系譜 江上波夫編 1992  
 日本の政治 村松岐夫 [ほか] 著 1992  
 行政学 西尾勝著 1993  
 ドイツ法律用語辞典 山田晟著 改訂増補版 1993  
 法律用語対訳集 フランス語編 法務省刑事局外国法令研究会編 1993  
 現代法学の諸相 岡山商科大学法経学部創設記念論集 山本正憲 [ほか] 著 1992  
 人権論の新構成 憲法論集1 棟居快行著 1992  
 憲法入門 樋口陽一著 1993  
 行政負担調整法 庄司実著 1991  
 行政手続法の研究 海老沢俊郎著 1992  
 フランス行政訴訟の研究 取消判決の対世効 伊藤洋一著 1993

土地家屋の法律知識 最新版 自由国民社 1993  
 実務相談株式会社法 1-5 別冊 稲葉威雄 [ほか] 編 1992  
 改正国際海上物品運送法 菊池洋一著 1992  
 精神障害と犯罪者の処遇 英国の法改正と現状 三宅孝之著 1992  
 民事訴訟制度の役割 新堂幸司著 1993  
 民事訴訟法 上原敏夫 [ほか] 著 1992  
 (逐条)民事執行に関する国家賠償判例総覧 法務省訴務局民事訟務課職員編 1993  
 刑事手続とコンピュータ犯罪 安富潔著 1992  
 体系アメリカ民事訴訟法 M.D.グリーン著 1993  
 国際仲裁の法理 P.シュロッサー著 1992  
 建物区分所有の法理 小沼進一著 1992  
 開発利益の経済学 土地資本論と社会資本論の統合 山田良治著 1992  
 労働関係法 小西国友 [ほか] 著 1992  
 サービスマーク・商品商標登録の実務 岡田全啓著 1992  
 「建築協定」の運営とまちづくり すぐに役立つ 鈴木克彦著 1992  
 東京外語支邦語部 交流と侵略のはざままで 藤井省三著 1992

## 気楽に読もう ③

## ビデオを観て「昭和の記録」全32巻

日本放送協会

僕がなぜ図書館のビデオを見るようになったかという、現在、教養課程の社会科学分野の政治学(坂本一登先生)の講義を受講していたのです。(後期からは十亀先生に変わってしまいました。)政治学は最初、日本の戦前の歴史を勉強しました。で後期は戦後の勉強すると思い、図書館に昭和の記録というビデオがあるのを知り、これは講義の勉強のためにもなると思い、暇な時に見ることにしました。すると後期からは先生が変わり、講義

の内容が変わってしまい、直接は関係がなくなったのですが、一度見てしまうと興味を持ってしまい、見てしまうことになりました。中でも安保闘争の激しかったころのビデオテープを見ると、その当時の学生と今の学生の違いには驚きました。とても同じ大学生とは思えなかったです。

まだ見ていないビデオテープもあるので、機会を作って見てみたいと思います。

経済学部2年 奥村 浩二



## 新着図書 — 人文学部

日本靈異記 池上洵一訳・注 1978 講談社  
 韓国古寺巡礼 新羅編、百濟編 鎌田茂雄、NHK[日本放送協会]取材班著 1991 朝日新聞社  
 大嘗の祭り 岡田莊司著 1990 読売新聞社  
 古代人の暮らし—吉野ケ里遺跡— 読売新聞社 1990  
 図説太平記—南北朝動乱に生きた男たちの群像— 毎日新聞社 1991  
 側近日記 木下道雄著 1990 朝日新聞社  
 ネグロス—嘆きの島 フィリピンの縮図— 山本宗補著 1991 朝日新聞社  
 南方熊楠アルバム 中瀬喜陽、長谷川興蔵編 1990 朝日新聞社  
 アメリカにおける秋山真之 上・下 島田謹二著 1975 朝日新聞社  
 ロシアにおける広瀬武夫 上・下 島田謹二著 1976 朝日新聞社  
 奥の細道を行く—カメラ紀行— 読売新聞社編 1989 読売新聞社  
 イスラム報道—ニュースはいかにつくられるか— E.W. サイド著 1986 朝日新聞社  
 だじょうぶ日本 K.K.P.Jr. ジョセフ著 1991 朝日新聞社  
 日本とアメリカ—相手国のイメージ研究— 加藤秀俊、亀井俊介編 1991 朝日新聞社  
 雪の国からの亡命—チベットとダライ・ラマ半世紀の証言— J.F. アベドン著 1991 朝日新聞社  
 ザ・カミング・ウォー・ウィズ・ジャパン—「第二次太平洋戦争」は不可避だ— G. フリードマン、M. ルバード著 1991 朝日新聞社  
 アメリカ市民が見た日本企業—期待される企業市民像— D. ポブ著 1991 朝日新聞社  
 洞村の強制移転—天皇制と部落差別— 辻本正教著 1990 朝日新聞社



BF 北駕文庫

文化と現代世界—文化人類学の視点から— 足立明[ほか]著 1991 朝日新聞社  
 写真記録樺太棄民—残された韓国・朝鮮人の証言— 伊藤孝司著 1991 朝日新聞社  
 出来事の民族誌—フィリピン・ネグリート社会の変化と持続— 清水展著 1990 朝日新聞社  
 国際ビジネス英語入門 深谷香椎著 1991 朝日新聞社  
 中島みゆき大研究 全日本みゆき族編 1987 朝日新聞社  
 モーツァルトのオペラ R. アンガー—ミュラー著 1991 朝日新聞社  
 コミュニケーション重視の学習活動 1 バルダン田中幸子[ほか]著 1988 朝日新聞社  
 日本人とアメリカ人の敬語行動—大学生の場合— 井出祥子[ほか]著 1986 朝日新聞社  
 英語の論理・日本語の論理—対照言語学的研究— 安藤貞雄著 1986 朝日新聞社

## 気楽に読もう — ④

『タージ・マハル物語』 渡辺建夫著 (朝日選書 352)  
 タイトルを見て、なんだカレー屋の話か? なんて思ったあなた、それは違います。絵葉書などで一度は目にしたことがあるでしょう。アラビアン・ナイトのなかにてでくる宮殿のような建物を。その建物タージ・マハルに纏わるインドの歴史物語がこの本です。タージ・マハルはムガル帝国の皇帝が、亡き妻のために22年の歳月をかけて造った大理石のお墓なんです。自分が死ねば妻も殉じ

て焼身自殺することを強要しながら、妻が死ねばさっさと若い妻をもらおうとするヒンドゥー教徒の男たち。すでに妻がありながらさらに何人もの妻を囲い、女を財産の一部として平然と売り買ってきてきたイスラム教の男たち。こんなインドの夫と妻の歴史の中で死んだ妻のためにタージ・マハルほどの墓を造ったシャー・ジャハーンという王はどんな人物か?。死者を焼いてその遺灰を河に流し、墓というものをつくる習慣をもたないヒンドゥー教徒の地でなぜ、これほど巨大な墓が必要だったのか?。不可解なことが多いだけにいろいろ





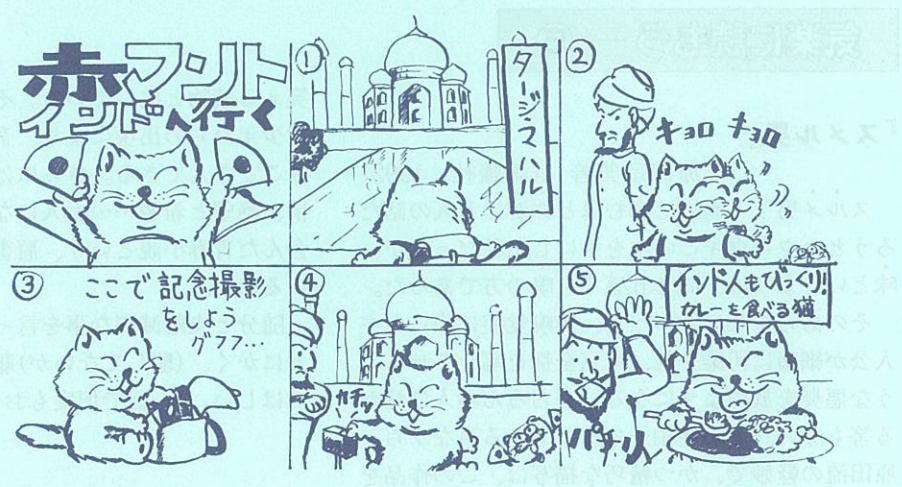
BF 北駕文庫

工学部—— **新着図書**

データベース白書 データベース振興センター編 1992  
 漢字Talk 7 実践活用ブック Macintosh 西村俊一著 1993  
 Macintosh 激選フリーソフトウェア集 Shareware & freeware collection しまゆぐ編・著 1993  
 怒濤のHyperTalk ビルに続けっ! 掌田津耶乃著 1992  
 逆引き Quick BASIC 上・下 戸内順一著 1990  
 ブッダの世界 玉城康四郎、木村清孝著 1992  
 古代日向の国 日高正晴著 1993  
 吉備の古代史 王国の盛衰 門脇禎二著 1992  
 市場経済化する中国 加々美光行著 1993  
 未婚化の社会学 大橋照枝著 1993  
 ファジィモデリングとその応用 田中英夫著 1990  
 アルゴリズムと計算理論 足立暁生著 1990

侵食 理論と環境対策 ミロス・ホリー著 1983  
 交通計画 森地茂、山形耕一編著 1993  
 水資源 椎貝博美著 1993  
 「ニューヨーク・ロンドン・パリ」世界都市の成長と基盤整備 富士総合研究所研究開発部編著 1992  
 建築単位の事典 建築単位の事典研究会編 1992  
 ルイス・カーン 建築の世界 デヴィッド・B. ブラウンリー、デヴィッド・G. デ・ロング編著 1992  
 建物維持保全ハンドブック 日常管理からリニューアルまで 竹中工務店建物維持管理ワーキンググループ編 1991  
 東京都立大学 新キャンパスの計画とデザイン 彰国社編 1993  
 多目的ホールの設計資料 日本建築学会編 1993  
 住まいづくりの本 日本建築士会連合会編 1990  
 現場のノイズ対策 Q&A 坂本幸夫著 1993  
 <美術> を超えて アレクサンダー・ドルナー著 1992  
 絵画を読む イコノロジー入門 若桑みどり著 1993  
 風景画家フリードリヒ ヘルベルト・フォン・アイネム著 1991  
 ビジュアル版日本さかなづくし 1-4 講談社 1985  
 日本語で引く英語類語辞典 松本安弘、松本アイリン共著 1992  
 英語の発想・日本語の発想 外山滋比古著 1992

ろな伝説・奇談  
 が残されています。  
 不思議の国の  
 インドの歴史  
 ロマンにふれて  
 みたくなつたで  
 しょ。(M)





## 新着図書 — 教養部

壬申紀を読む 歴史と文化と言語 西郷信綱著 1993  
 歴史のモラル ツヴェタン・トドロフ著 1993  
 歴史のなかの米と肉 食物と天皇・差別 原田信男著 1993  
 遠い隣人 近世日露交渉史 ノルベルト・R・アダミ著 1993  
 侍たちの北海道開拓 榎木守恵著 1993  
 孔明と仲達 天才と英才の対決 松本一男著 1992  
 十三世紀の西方見聞録 那谷敏郎著 1993  
 日本人出稼ぎ移民 鈴木讓二著 1992  
 権力はいかにしてつくられるか 入谷敏男著 1993  
 新 カナダ語学留学とワーキングホリデー 八木慶男著 1993  
 星から銀河へ ハーシェル の庭 H.R. パージェル 著 1993  
 新インスリン物語 丸山工作著 1992  
 川を考える 野田知佑、藤門弘著 1992  
 僕は森へ家出します 荒川じんぺい著 1990  
 北海道を開拓したアメリカ人 藤田文字著 1993  
 仮面と信仰 中村保雄著 1993  
 「和英」人物表現データバンク こんな人を英語で何という 小林敏彦著 1992  
 桜と日本人 小川和佑著 1993  
 家族アート 伊藤比呂美著 1992  
 小樽雪舞い 川嶋康男著 1992  
 地球温暖化への挑戦 大内日出雄編著 1992  
 子規からの手紙 如月小春著 1993



BF 北駕文庫

炎天 北方謙三著 1992  
 琉球王国衰亡史 嶋津与志著 1992  
 リヴィエラを撃て 高村薫著 1992  
 廣南部義民伝 立松和平著 1992  
 ナスカ砂の王国 地上絵の謎を追ったマリア・ライへの生涯 楠田枝里子著 1990  
 天国はもう満員 ハンター・トンプソン集 ハンター・トンプソン著 1993  
 ファイアズ (炎) レイモンド・カーヴァー著 村上春樹訳 1992

## 気楽に読もう — ⑤

### 『スメル男』

原田宗典著 (講談社 1992)

スメル男? 噛めば噛むほど味がでる人の話だろうと、ウキウキこの本を手にした私だったが、味というよりは、同じ五感でも嗅の方であった。

そのあらすじはというと、無嗅覚症に陥った主人公が細菌に汚染され、東京全都を嘔吐させるような悪臭を放つようになる。もちろん本人に分かる筈もない。その突拍子のなさもさる事ながら、原田流の軽妙で、かつ精巧な描写は、この作品を

笑える読物と成している。それだけではない。天才少年たちの出現により、奇想天外な冒険譚と言うことさえてできる。さらには、現代諷刺、愛、友情、絶望と希望……大人になるための要素を総て含んだ青春小説という、肩書のおまけまでついているのだ。

随分と支離滅裂な事を言っている気がするが、とにかく、(騙してないが)騙されたと思って読んでほしい。“一冊で何度もおいしい”本である。

(N)



# 年の始め

大江 敏 美

幾つかの国で過ごしたお正月のうち、カナダとニュージーランドのそれについて紹介してみよう。

天増歳月人増寿／春満乾坤福満門／  
福如瑞草殷殷艶／人似梅花歳歳春  
という4行詩が、赤色の紙の上に大書され、大宴会場の壇上に飾られる。厳寒のなか三々五々と旧正月を祝う人々が集まる。劇、歌、舞踊、竜踊り、籤引きを楽しみながら、300人程の中国系カナダ人が、故国を偲んで新年を祝う。招かれた私も、中華料理を食べながら、中国大陸のどこかにいるかのような錯覚を起こす。カナダ西部の人口6万の町で、300人という数は多いが、今では、カナダ政府も50万ドル以上を持ち込むビジネス移民以外は、中国からの移民を制限している。

一般のカナダ人は、クリスマスが終われば、大きな行事はなく、大みそかに家族や友人が集まり夜12時になると過ぎ行く年に別れをつけAuld lang syne（「蛍の光」の元歌）を歌う。

New Zealand 国民は、果物及び鳥のキウイと同じくキウイと愛称されている。マオリ (Maori) 族が、その全人口の10%を占めるが、世界各地同様に、先住少数民族として地位改善の運動をしている。

英語及びマオリ語の2つがこの国の公用語で、

小学校でも両方が必修である。かつて、地上における天国を実現しようと、イングランド国教会の信者たちが原野を開拓し、作った町がクライストチャーチ（人口31万）。この町の年越しは、北半球とちがって、夏の陽気である。大聖堂のそばの広場には、仮設舞台が作られ拡声装置が設置される。南十字星の下でロック・バンドと聴衆がともに熱狂的に旧年にグッドバイする。下記は私がお正月に鑑賞したマオリ族のコーラス団の舞踊と合唱のなかの、キウイの第二の国歌ともいう Pokarekare Ana というラヴソングの歌詞の導入部とその英語訳である。外国にいるキウイたちは、このロマンチックで憂愁をおびたメロディを聞いて涙を流すという。

Pokarekare ana The waves are breaking  
Nga wai o Rotorua 'Gainst the shores of  
Whiti atu koe e hine Rotorua  
Marino ana e My heart is aching  
For your return, my love!

(Rotorua は洞爺湖ぐらいの面積のカルデラ湖)  
(おおえ としみ 教養部教授)

## 気楽に読もう — ⑥

### 『完全自殺マニュアル』

鶴見 濟著 (太田出版)

「とにかく生きにくい世の中、いざとなったらこの方法で死んじゃえばいい—だから少しラクに生きられる。」

この本は題名以外の何物でもない。一応はじめに自殺論の様なものがかかれているが、それは大したことではないらしく、本編にはひたすら自殺のノウハウがズラリと並んでいるだけだ。

クスリ自殺に首吊り (自殺の王道だそうだ。) 飛び降り、頸動脈切り、ガス中毒に入水、焼身自殺などなど (熊に食べられて自殺する—なんてのもあったらしい) ありとあらゆる方法がその準備から実行、その後の経過、死体状況、

注意事項、と順を追って専門的、自殺偏執狂的かつわかりやすく説明されている。そのうえ、豆知識や自殺名所地図も盛り込まれ、まさに至れり尽せりである。

本全体に陰鬱な感じはなく、むしろ慢然と生き延びる方が不健康であるよ、と励まして (?) くれてる気がどうもする。様々な人にうれしい本であろうことはまちがいない。

しかし、この本を片手に貴方の決意を実行することは決してしないように。それは最低限の礼儀だよ。

法学部4年 田村 幸恵



I. バーリン/R. ジャハンベグロー  
『ある思想史家の回想——アイザイア・バーリンとの対話』  
みすず書房、1993年6月

立川 潔

本書は、イギリス経験論の伝統が育んだ最も良質な思想家アイザイア・バーリンの対話集である。本書を通じて私達は、コジェーヴ、パステルナーク達との彼の豊かな交流を楽しむことができる。しかし、なによりも印象深いことは、想像力の力をかりて他の個人や国民の立場に入り込み彼等の思想や苦悩を理解しようとする「感情移入(empathy)」の方法が、彼の思想史研究ばかりではなく、多元主義的な自由主義思想にも重厚さを与えているということである。

バーリンは、1909年バルト海沿岸のリガで、ユダヤの木材商の子として生まれた。その彼を恐怖させるのは、ソ連の大量殺戮やナチのホロコーストを生む熱狂主義である。彼の思想的営為は、こうした悲劇を導く思想的根源、すなわち「完璧な生についての熱狂的な確信」を生む一元主義と「歴史の代理人」を自称させる歴史的決定論とに対する批判に凝縮されている。

彼の中核的信念は、様々な真理や価値は対立せざるをえないという多元主義である。完全な自由と平等が両立不可能なように、諸価値の完全調和はありえないのだから、「完璧な生」という思想自体誤りである。私たちは、両立不可能な価値に直

面して苦痛を伴う選択を迫られるが、それだからこそ自由な主体たりうるのである。このような選択を許さない筋書きは歴史にはない。したがって、様々な価値の追求を可能にし破壊的な対立を避けようとするならば、どうか辛抱しうる範囲で諸価値の妥協をはかる寛容と自由を実現しなければならない。このような彼の理想は「控えめな」ものではあるが、完全な社会という崇高な理想が流血で終わる現実を踏まえれば、極めて説得力をもっていると言わざるをえない。

このようにバーリンは一元的な究極的価値を認めないが、しかし相対主義者ではない。文化の多様性を彼に主張させた感情移入の方法は、まさに大抵の場所と時代において大多数の人々に共通する価値があるからこそ、可能なのである。もしそうでなければ、人間という観念は成立せず、異文化に属する人々はコミュニケーションしえないはずであろう。文化の多様性ととも、西欧合理主義思想の中心に流れる(“All S is P.”ではなく“*All Ss are Ps.*”という意味で)普遍的な価値(人権)を継承し尊重するバーリンの思想は、それゆえ極めて強靱なのである。

(たちかわ きよし 経済学部助教授)

● 図書展示会、No.19 ●

展示期間：平成5年11月24日～平成6年3月23日  
展示場所：図書館1F、自由閲覧室

今回のテーマ：「日本法史」展  
～古代法から江戸は大岡裁きの世界、明治は近代法の誕生まで～  
本学、北駕文庫所蔵古文書より

《展示書 62冊の内、成立が最も古いものの解説》  
「官板 唐津疎義」(かんばん とうりつそぎ)  
—成立期：唐、復刻版：江戸、官報書籍発行所、  
1806年(文化3)—中国、唐朝(618～907)の

法律。日本における律令制(りつりょうせい)の成立は、645年、大化の改新により中国の制度を採用し、律令国家の建設へと向かい初めてからである。その完成は、平安初期とする説が有力である。



# とある“良い税金”について

## — 税金 あらかると —

良い税金とはどんな税金のことを言うのでしょうか？（感情的には“ないが一番”だと思いますが、そういう訳にはいきませんか？）“良い税金”の条件の一つに効率性があります。なぜなら、税金を集めるために多くの費用をかけてしまうとその分は使えない税金になってしまうからです。ですからできるだけ『少ない費用で多くの税金』をということになります。

ここで問題です。次のAに対応する数字は、1と2のうち、どちらでしょうか？

A. 法人税 1. 27.7%

B. 源泉所得税 2. 32.5%

いきなりこんなことを聞かれても困ってしまうかもしれませんね。では「平成4年度の国税収入のうち法人税の占める割合は何%か？ 源泉所得税の占める割合は何%か？」という問題だとしたらあなたはどれとどれを組み合わせますか？ 法人税と言えば『会社』の払う税金。石を投げれば『会社』に当たると思われるほど『会社』の数が多いニッポン。きっとパーセントの大きい方が法人税だわと思ってしまう人も結構いるのではないのでしょうか。実は（平成4年度の予算ベースで）国税収入の41.7%を所得税が占めています。その内訳は源泉所得税が32.5%、申告所得税が9.2%です。源泉所得税だけで法人税（国税収入の27.7%）

を上回っているわけです。そうです。効率の“良い税金”の代表選手がこの源泉所得税なのです。

この源泉所得税は毎月毎月支払っているのですがそのことを特に実感するのは、1年に1度の年末調整のときでしょう。毎年自分で書いて提出しているにもかかわらず、いざとなると書き方を忘れてしまって本当に面倒くさいと思ったことのないサラリーマンがいるとしたらかなり幸運な人だと思います。税金は社会人になる“あなた”を待っているのです。

（それにしても税務署っていうところは、毎年こんなに書類を集めてどうするんだろうと思ったことはありませんか？ 実はこの書類実際には給与の支払者が受理したときに税務署に提出したことになり、支払者が手元に保管することになっているのです。） (O)

平成4年分の所得税の確定申告書 (給与所得者の)

提出先 香川県高松市東区芝5-8-1 税務署

申告者 山田太郎

所得金額欄

所得の種類	金額	源泉徴収された金額	給与所得控除後の金額
給与所得	7,958,000	0	6,055,000
雑所得	605,000	0	605,000
所得から差し引かれる金額			

日本の律令制が発展する過程で隋・唐・明・清の中国各時代の律令は、常に、お手本であった。特に、律令法典としての完成をみた当書は「開元25年律」を伝える。律令：律と令。律は刑法、令は行政などに相当する中央集権国家統治のための基本法典。

「大明律」（だいめいりつ）—刊年不明— 中国、明朝（1368～1644）の法令。

「大清律例刑案」（だいしんりつれいけいあん）—1871（中国、同治10）— 清朝（1616～1912）の刑法。

「勅五憲法」（ちよくごけんぽう）—別称：（聖徳太子）十七箇条憲法・推古帝勅五憲法・和字五憲法、成立年：604年（推古天皇12年）、復刻版：1734年（享保19）版による再刻。1871年（明治4）刊。— 聖徳太子による日本最古の憲法。内容は、国家安民の大本は上下の和親に在ること、民法は、尊信すべきものたること、天皇に対する臣道のこと、人民に対する態度のこと、訴訟裁判に関する心得のこと、勧善懲悪の必要なこと、官吏の登用上、服務上心得べきことなど、治国修身の要道を述べたもの。その他。

※当「展示目録と解説」、配布中。



## — 外国人に日本語を教えるということ —

中川 かず子

ゼミで、日本人学生と、日本語のどこが難しいかを考える。しかし、既に日本語を無意識に操る学生たちには、日本語の構文や音声等の意識化はそう容易ではない。一年間のゼミが終わっても、日本語の意識化ができる学生はごく少数である。母国語として身につけてしまった言語を意識し、分析し、抽象的な言葉で解釈し直そうというのだから無理もない。「難しい」とか「易しい」は何かの基準から判断された尺度であるが、その対象になるものが他の何かと比較されて初めて判断が可能になる。したがって、「日本語の難しさ」も、外国語の視点を基準にしたものと考えれば、少し気が楽になるかもしれない。

最近、日本語を教えたいがどうしたらいいかと相談を受けることが多くなった。かつては、まず日本語の研究をと勧めたものだが、この頃は、それよりも、外国語学習の体験や外国人との交流を提案することにしている。それは、外国語学習や異文化交流が日本語と日本人をより客観的に映し出してくれるからである。挨拶ひとつを例にとって考えても、このことは明らかである——本シリーズ第一回で、筆者は「失礼します」「すみません」等の謝罪表現を取り上げ、なぜ日本人が頻繁にそのような表現を使うのか、その背景を考えてみた。それに対して、本大学に在籍する研究生(中国出身・経済学部)から、中国語と日本語の挨拶表現について興味深い意見が寄せられた。中国で「ご飯食べましたか」を「こんにちは」代わりに用いるのは、歴史を遡ってかつて食糧危機に陥った時代の名残ではないか、また、中国では人との別れの際などに「頑張って」と励ますより「働くな、ゆっくり休め(働いても給料は同じなのだから)」を表わす「悠着点」を用いる等々、挨拶表現は国民性とその時代の社会的背景に影響されるといった内容であった。この研究生は日本語を外国語と

して勉強し、母国語の中国語を客観的に見事に分析している。

話題を挨拶から日本語全体に移すが、外国語話者から見て、日本語のどんなところが注目されるのか、少し例を紹介する——あるオーストラリア学生からの質問。「昨日どこへ行きましたか」と「昨日はどこへ行きましたか」は同じか。「昨日どこへも行きませんでした」より「昨日はどこへも行きませんでした」がいいと聞いたが、それはなぜか等々。助詞の「は」は、日本語学习上、もっとも理解しにくい要素の一つである。また、受身、やりもらい、待遇表現に見られるように、日本語文は文末に話し手のムード(心情)が表わされるため、文の終わりを聞いただけで、話し手の感情の表出や聞き手への働きかけ等、多くの情報が得られるようになっている。例えば、「(箱を)持っていた」は単に誰かが箱を運んだ事実を述べているが、「(箱を)持って行ってくれた」「(箱を)持って行ってもらった」「(箱を)持っていかれた」等は、話し手の聞き手に対する感謝や迷惑の感情を表わしているのがわかる。

日本語を外国人の目から、あるいはソトから眺めると、特にその骨組みとなる構文上の特徴のほかに、骨格の隙間を埋める助詞や文末におさまる話し手の心情部分に日本語らしさを見ることができ。こうした特徴は、英語や中国語などの言語と比較するとよくわかる。

外国人に日本語を教えるには、日本語をはじめ、社会、歴史、経済といった文化的領域にわたる知識と経験がほしいと言われる。そして、その前に大前提となるのは、教師自身の異文化、“異言語”理解であろう。これからの地球化時代では、多くの日本人が「日本語教師」の基本的資質を持つことが望ましいと思うのだが。

(なかがわ かずこ 人文学部教授)

北海学園大学附属図書館報 図書館だより Vol.15 No.4 (通巻128号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目  
☎ (011) 841-1161 本館内線 270~275・279 工学部内線 813・814 印刷所: ㈱アイワード